

# カリキュラムマップ（子ども：教職関係（中高・養・栄））

教職関係(子ども担当)カリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践力)
教育原理(中高・養・栄)	人類が培ってきた教育の歴史や先人の教育思想を学ぶことで、教育に携わるうえで欠かすことのできない教育の理念について考える基盤を身につけることを目的とする。また、学習指導要領をふまえた授業を構成・展開し、カリキュラム・マネジメントを行う能力を身につけるうえで欠かすことのできない、教育課程の意義ならびに編成の方法について学ぶ。	1.教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解することができる。 2.教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を理解することができる。 3.教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際に教育および学校との関わりを理解することができる。 4.学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義について理解することができる。 5.教育課程編成の基本原則および学校の教育実践に即した教育課程編成の方法について理解することができる。 6.教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義について理解することができる。	2	2	前期	2	-	◎	△	○	○
教育制度論(中高・養・栄)	現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき成立し、その背景の思想が制度を歴史的・社会的に成立させる。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、それらを構成する制度の仕組みの展開や問題を検討する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も学習する。授業方法としては、主として講義形式で行う。	1. 教育に関する制度的事項について、 ①公教育の原理及び理念を理解している。 ②教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 ③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 ④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。 2. 学校と地域との連携について、 ①地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ②地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 3. 学校安全への対応について、 ①学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 ②生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。	2	2～3	前期	2	-	◎	○	○	○
道徳教育の指導法(中高・養・栄)	道徳教育のあり方を探り、明らかにするとともに道徳教育の方法を究明する。	道徳の意味、道徳性の発達過程、道徳教育の歴史的背景、全体構造、指導の方法についての理解が深まり、教職における道徳教育実践への構えが形成される。	2	2	後期	2	-	◎	○	○	○
特別活動の指導法(中高・養・栄)	この授業のねらいは、次の2点である。(1)おもに中学校における特別活動の意義と方法を、「子どもどうしの関わり合い」という観点からの具体的な事例の検討や、グループワークによる模擬体験などを通じて理解すること。(2)子どもの発達の諸相を理解し、発達段階、領域ごとに特別活動における教師の関わり(働きかけ)の方法論を理解すること。	1. 特別活動の意義と方法を、「子どもどうしの関わり合い」という観点から説明することができる。 2. 子どもの発達段階や領域に応じた、特別活動における教師の関わり(働きかけ)の在り方を説明することができる。	2	2	前期	2	-	◎	○	○	○
教育実習I(中高)	教員採用試験受験に向けての意識を高め、合格を目指して「教職科目(教育心理)・(教育原理)・(教育法規)」、「人権教育」、「専門科目」の5教科を講義する。併せて、教育実習に向けての事前指導も行う。	教員採用試験に合格できる実力をつけること、教育実習に必要な知識・技能を身につけることを目標とする。	1	3	通年	3	グループワーク、模擬授業		○	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践力)
教職実践演習(中・高)	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項」「教科・保育内容等の指導力に関する事項」の四つの事項に沿いながら、教育の目的を達成するための教員のあるべき姿勢や、中高の現場で教職を遂行する上での必要な能力について、演習形式によって、実践力をつける。学校現場での臨地授業研究や、現役教員による講演と対話形式の研究会を実施して、現場の実際に触れ、実践的な教育力向上を図る。	生徒指導、教科指導、学校経営の具体的な場面を想定した演習を通じて、あるべき教師像や、問題解決につながる考え方、対応の仕方の基本を獲得する。	2	4	後期	4	問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション		○	◎	◎
介護等体験	1. 介護等体験を特別支援学校及び社会福祉施設で7日間実施するため、受け入れ施設をめぐる状況について理解すること。 2. 介護等体験の心得について理解すること。 3. 介護等体験を振り返り、障害者・高齢者の理解やコミュニケーション能力等についての自己覚知を深めること。等を目的とする。	1. 介護等体験の受け入れ施設をめぐる状況について理解する。 2. 介護等体験の心得を身につける。 3. 個人の尊厳、コミュニケーションのあり方等について、交流活動をとおして理解を深め、教員としての資質を向上させる。	1	3	通年	3	-	◎	○	○	◎
教育におけるICT活用(中高)	社会的背景の変化や急速な情報技術の進展に関する理解を深めた上で、資質・能力の一環としての情報活用能力、その育成のための授業づくりやICT活用、教育情報セキュリティ、情報モラル、情報通信技術を効果的に活用した校務の推進に意義や方法に関して具体的な活用事例を踏まえて学ぶ。オンデマンドになった場合は、教員からの課題提示及び受講生からの課題提出はCampusSquareを使用する。	(1)情報にかかわる社会的背景の変化や技術の進展の中で求められる資質・能力の育成に繋げる個別最適な学びと協働的な学びの実現課題及びICTの役割及び効果的な活用方法について理解する。(2)学習履歴など教育データを活用した指導や学習評価及び教育情報セキュリティの重要性と具体的な方法について理解する。(3)情報モラル教育の必要性とそのための具体的な指導事例について理解する。	1	3		3	グループディスカッション及びチームによるオンライン協働学習支援ツールを活用した指導案作成ワークショップ	○	◎	○	○